

「新聞社企画・マーケティング部門」

新聞広告賞

2032年の福島民報

福島民報社「未来創造局」プロジェクト



2032年
8月1日
日曜日

発行所
福島民報社
福島市大田町13-17
(電話番号)024-662-0001



創業150周年
DAISHICHI
SINCE 1872



選挙権「12歳」引き下げ
福島県のリーダー選ぶ
福島県選出のリーダー候補者選出の投票箱に投票する小学生の姿が写った。投票箱には「投票箱」と書かれている。背景には他の投票箱と人々の姿がぼんやりと見える。

福島から「恩返し」
防災五輪 2033年11月開幕
双葉、大熊で2週間
福島県が被災地復興を支援する「防災五輪」が、2033年11月に開幕する。この大会は、被災地復興を支援する目的で開催される。大会の開催地は、被災地復興を支援する目的で開催される。大会の開催地は、被災地復興を支援する目的で開催される。

ご意見、ご感想をお寄せください
◆読者センター
電話 024-662-0344 (平日午前10時～午後5時)
◆FAX 024-662-4117
◆未来創造局
メール mirai_souzou@fukushima-minpo.co.jp

十年の一言
福島民報社が創刊100周年を記念して、読者から寄せられた一言を掲載する。これは、福島民報社が創刊100周年を記念して、読者から寄せられた一言を掲載する。

NO MUSIC, NO LIFE. 35TH ANNIVERSARY II 1937-2032
DAISHICHI
SINCE 1872

あなたのくらしのいろいろな場面で、力になりたいJAです。

JAグループ福島
耕ぞう、大地と地域のみらい。

- JAふくしま 日本各地の安全・安心に努めています
- くらし 豊かで安定した暮らしを支援しています
- みどり 自然の美しい風景・環境を大切にしています
- 健康 高齢者の健康・生活を支えています
- 子育て 子育て世代の安心・生活を支援しています
- JAグループ福島 未来を共に創ります

写真は一部加工しています。

MIRAI 2032

2032年、未来はどのような世界になるのか。それは、私たちの手で描かれる。2032年、未来はどのような世界になるのか。それは、私たちの手で描かれる。

福島県 未来創造局

空飛ぶバス テイクオフ

南相馬でテスト飛行
若き「ウッディー」
スギ花粉減に貢献

ドローン 防災五輪 避難者輸送競う

宇野行きバス発着地に
食の安全 世界へPR

全て再生エネで運営へ

おはようございます。
2032年8月1日。
今日は、福島民報の140歳の誕生日です。

- 広告主 —— 福島県、東邦銀行など 34 社
- 掲載状況 —— 2022年8月1日/別刷り(22ページ)、カラー
- 広告活動 —— カウントダウン広告、X(旧Twitter)、YouTube、ラジオ、パネル展示、投稿サイト「note」、出前授業
- 企画 —— 福島民報社、風とロック、博報堂DYメディアパートナーズ
- 制作 —— 福島民報社、風とロック
- 扱い —— 博報堂DYメディアパートナーズ、東北博報堂ほか

● 企画の概要と選定理由
創刊130周年を記念し、社内の若手社員を中心に「未来創造局」プロジェクトを立ち上げ、10年後の福島県を描く特集紙面を発行した。福島県出身のクリエイティブディレクター・箭内道彦氏を局長に迎え、2032年の視点から制作した。「第1回世界防災五輪開幕」「新規就農者2万人突破」など地域の課題を踏まえた記事とともに、技術の進化したら明るく新しい世界や新たな観光名所、食の未来などを現実的にこざわり伝えた。企画趣旨に多くの企業・団体が賛同し、未来志向の新聞広告を出稿した。新型コロナウイルスや世界での軍事衝突により将来が見通しにくい中、地域に寄り添う前向きなメッセージを発信し、県民に希望とふるさとの誇りを醸成した企画として高く評価された。

新聞広告賞

さらば「いばらぎ」濁点宇宙発射計画

茨城新聞社 東京支社



茨城県は「いばらぎ」県です。

1871年の廃藩置県から150年間近く、私たち茨城県民は、いちいち読み間違いを訂正し続けるのに、少々疲れてしまいました。訂正せずに、笑顔でスルーするのは日常茶飯事。もう「いばらぎ」でもいいかなと思ったり、いっそ「いばらぎ」ってことにしようかと思ったりしたことも。でも、私たちが諦めてはいけません。そうすると、たぶんそのうち本当に「いばらぎ」になってしまう。このちょっと言いにくい愛嬌ある名前には情があるから。そこで茨城新聞社は、日本中、ひいては世界中のみなさんに覚えていただくために、「ぎ」の「ぎ」を宇宙に飛ばしてしまおうと思いました。茨城県、そして茨城を愛するみなさんと手を組み、宇宙ベンチャー・スペースバルーン社の協力のもと、プロジェクトを進めます。結果は、11月11日にムービーで公開予定。え、バカバカしいって？ そうです。それで覚えてもらう作戦です。



「いばらぎ」の「濁点」を切り離し、宇宙に発射して地上から消し去る。はたしてプロジェクトは成功するのか？ 全容を記録したムービーを、11月11日に公開します。視聴方法はあらためて新聞広告でご案内します。お楽しみに。

さらば「いばらぎ」濁点宇宙発射計画、始動。

企画制作: 茨城新聞社 協賛: 茨城セキスイハイム BIGMARCH elleair エリエール 中越パルプ工業株式会社 廣澤美術館
制作協力: SPACE BALLOON PR協力: ROBOT'S KSケースデンキ 協力: 電通

2022年10月20日付



11月11日付

- 広告主 —— 茨城セキスイハイム、ジョイバック、大王製紙、中越パルプ工業、廣澤美術館
- 掲載状況 —— 2022年10月20日、11月11日、11月13日、11月23日、12月2日、2023年1月12日 / 二連版全30段、全15段、全5段、雑報、カラー
- 広告活動 —— YouTube、交通広告、ポスター
- 企画 —— 茨城新聞社、電通
- 制作 —— 電通、電通クリエイティブキューブ、大日、WOIL
- 扱い —— 電通

● 企画の概要と選定理由
「いばらぎ」を「いばらぎ」と読み間違えられる長年の懸案を解決するため、新聞広告を起点に「ぎ」の濁点を宇宙へ発射して地上から追放することで認知度を高めるプロジェクトを展開した。茨城県知事による濁点を摘出す儀式を経て、宇宙産業が盛んな地域の特性を生かし、関連企業の協力を得て濁点を貼り付けた色紙を地上3万メートル超の宇宙空間まで飛ばした。発射計画の告知と完了を新聞広告で伝え、ユーチューブに全容を公開するとSNSで大きな反響を呼び、テレビ番組も相次いで取り上げた。県内外からの協賛を集め、荒唐無稽に見える企画に真剣に取り組み、地元愛を表現したユーモアあふれる活動として高く評価された。

新聞広告賞

祇園甲部歌舞練場新開場記念 柿落とし公演 都をどり特集

京都新聞社 京都新聞COM事業推進局

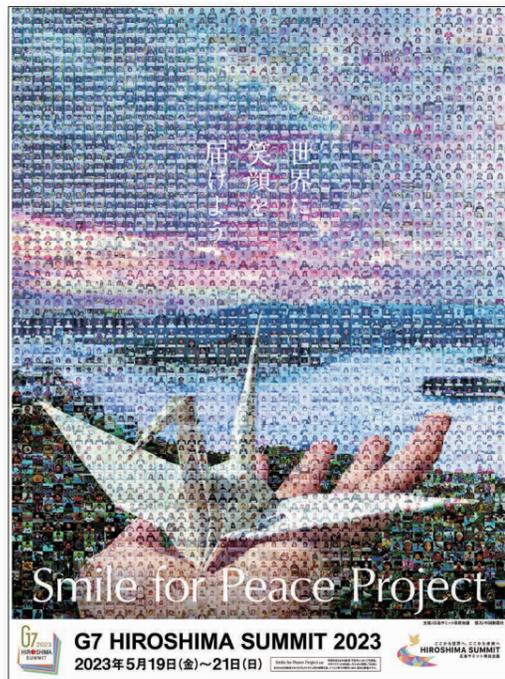
- 広告主 —— 八坂女紅場学園、大成建設、エアウィーヴ、西日本旅客鉄道ほか 114 社・団体
- 掲載状況 —— 2023 年 3 月 20 日 / ラッピング 12 ページ、カラー
- 広告活動 —— 「祇園甲部と都をどり～あゆみと未来～ 都をどり創始百五十年・歌舞練場新開場記念」の発行・配布・販売、ウェブサイト・SNS、ラッピング紙面の配布（舞妓さんによる街頭配布、柿落とし公演来場者）、チラシ、ポスター、屋外・交通広告、ラジオ、YouTube
- 企画 —— 京都新聞 COM、実業広告社
- 制作 —— 京都新聞 COM、京都新聞印刷、実業広告社
- 扱い —— 実業広告社

● 企画の概要と選定理由
創始 150 周年を迎えた京都の伝統芸能「都をどり」が、「祇園甲部歌舞練場」の大規模な改修工事やコロナ禍による休演を経て 7 年ぶりに開かれる機会を捉え、その魅力を伝える広告企画を展開した。京都の花街・祇園甲部所属の舞妓・舞妓が勢ぞろいした写真を見開きで掲載し、12 ページのラッピング特集で都をどりの歴史や楽しみ方を紹介した。散在していた資料を集め 150 年史も編み込んだ。特設サイトや SNS を活用して読者以外へのプロモーションを実施し、公演チケットが完売するなど大きな反響を呼んだ。文化庁の京都移転のタイミングに合わせ、多くの広告主の賛同を得て地元伝統文化の価値を新聞社の総合力を生かし発信した活動として高く評価された。

新聞広告賞

G7 広島サミット企画
「Smile for Peace Project ~笑顔の世界に届けよう~」

中国新聞社 地域ビジネス局



2023年2月8日付 (サミット100日前)



5月12日付 (サミット1週間前別刷り)



5月12日付別刷り (英語版)



カウンタダウン広告



5月19日付ラッピング紙面 (裏面)

- 広告主 —— 広島サミット県民会議、マツダ、オタフクソース、青山商事、広島銀行、グランドプリンスホテル広島、イズミ、広島ガスなど計68社
- 掲載状況 —— 2022年7月23日から2023年5月19日/ラッピング全60段、二連版全30段、全15段、全5段、別刷り(12ページ、日本語版・英語版)、雑報、カラー
- 広告活動 —— モザイクアートのパネルを制作し、G7各国やEU大使館に提供、国際メディアセンターに掲出。国内外の来訪者および広島市内のホテルや観光案内所に別刷りを配布。
- 企画 —— 中国新聞社地域ビジネス局
- 制作 —— アンブ、中国新聞社地域ビジネス局
- 扱い —— 電通西日本、みづま工房、三晃社、朝日広告社、廣告社、洋光、総合広告社、RCC文化センター、エモーションワークス、中国新聞アドなど
- 企画の概要と選定理由 —— 2023年5月19～21日に被爆地・広島市で開催された先進7カ国首脳会議に合わせ、国内外の人々にモザイクアートで平和と地域の魅力を訴える広告企画を展開した。笑顔で歓迎の意を示す県民の写真約1万枚を配置し、瀬戸内海の風景と折り鶴を模したモザイクアート広告を制作。サミットの100日前の紙面と1週間前の日本語版と英語版の別刷り特集に掲載し、メディア関係者や観光客などに配布した。第1弾の特集紙面を300日前に載せ、50日前から小枠広告でカウンタダウンを始め、2日前から当日まではラッピング紙面で開催を待ち望む機運を醸成した。新聞社の総合力を結集し、多くの広告主から賛同を得て平和の尊さを伝え、サミットへの関心を高めた活動として高く評価された。